



Personal MBA

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

働くことが結果を生むのである。それを効率的に行うことが正しい経営である。

倫理的に優れる企業は、必ず優れた企業風土を有するのである。

結果を否定することは、現実を否定することである。結果主義が、企業の必題である。しかし結果は過程を要求する。過程を正しく与えることが、それにおいて正しい経営なのである。

厳しさが経営である、甘さは、失敗を与える。

可能性は決して否定すべきでない。それは実現できるからである。そのため計画と行動は最も効率的にこれを要求する。

分析と計画は、実現を可能とする。それらは詳細にすることにおいてより確実性を得るのである。ビッグデータにおける企業経営は、その分析と管理において、企業サイクルの完成を有するのである。

時代という今日の変化は、新しい未来の創造である。これらは自由経済システムという合意において、グローバリズムとともに、未来を実現するのである。これらは企業の使命は、新しい未来の創造という新しい現実を有するのである。

ビジネスは必ず戦いである。そのため勝者と敗者を生むのである。

人材はその現実化における能力において自己を問われる。

経営者は、すべての責任を現実に対して与えられる。